

1.1 一つの研究ができるまで

①どこに目をつけるのか

②どう考えるのか

完成品は

佐藤俊樹『桜が創った「日本」』（岩波新書、2005年）

「※:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。」

佐藤俊樹著

桜が創った「日本」

—ソメイヨシノ 起源への旅—



ソメイヨシノの誕生は 革命だった！

〈日本〉と〈自然〉をめぐる語りの迷宮へ

カラー口絵2頁

岩波新書／最新刊 定価(本体 740円+税)

†

佐藤 俊樹 (著)
桜が創った「日本」
—ソメイヨシノ 起源への旅—
(岩波新書)
岩波書店 (2005/02)

1.2

「常識をうまく手放す」

プロセスとしての社会学

⇒まずは 常識はどんなもの？

2.1

現在の日本では
「桜といえばソメイヨシノ」

日本の桜の7～8割を占めるとも
正確な数は誰も知らない……





2.2

特徴としては

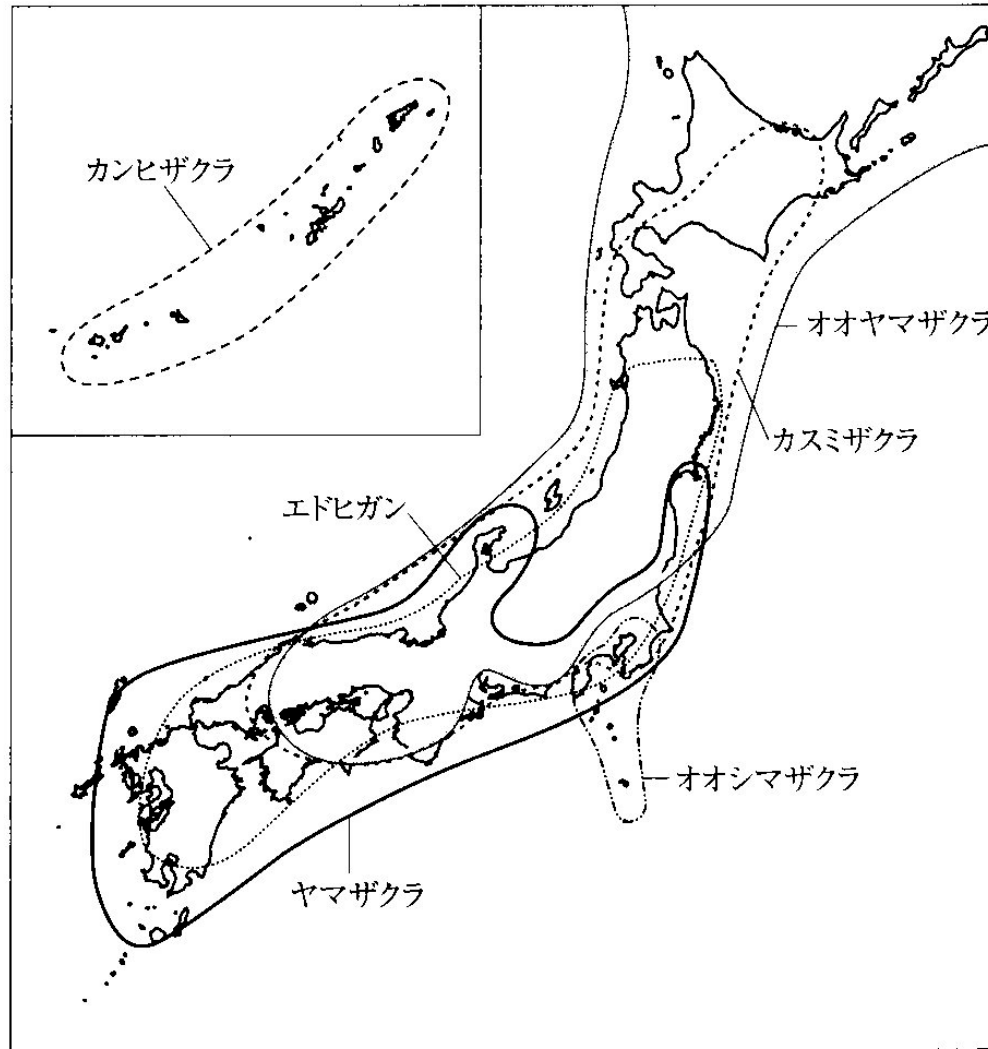
①花だけが一斉に咲く 花つきが多い

→見映えがよい！

②成長が早く根付きもよい

九州南部～北海道中部まで広く分布

→日本列島の大部分を覆う



それぞれの地域の線引きは大まかなものである。オオヤマザクラは九州の高い山にも自生する。カンヒザクラは野生化したものという説もある。

図 I-1 自生種の分布

† 佐藤 俊樹 (著)
桜が創った「日本」
—ソメイヨシノ 起源への旅
(岩波新書)
岩波書店 (2005/02)
P7 図I-1

2.3

一言でいえば「絵になる桜」

時代劇のTVやマンガの春の場面に出るのは大体これ
「一面の花色」

例えば

①遠山の金さん 刺青の「遠山桜」

②及川七生『月夜烏草紙』白泉社花とゆめコミックス

花の特徴からみてソメイヨシノ

「風情があっていいなあ……………」

著作権の都合により、
ここに挿入されていた
遠山の金さんの入れ墨、「遠山桜」
の画像を削除しました。

著作権の都合により、
ここに挿入されていた
及川七生「月夜烏草子」
の画像を削除しました。

2.4

しかし 時代考証としてはまちがい

ソメイヨシノは新しい桜で江戸時代の
桜図鑑には載っていない

名前がついたのは明治23年(1890)

資料が確認できる明治10年代以降

⇒いまから百数十年前に出現した

2.5

私たちが今見る桜の春＝「一面の花色」
の景観は
昔の人が見ていたのとはかなりちがう

←「常識」と事実のずれ！
従来の常識は……

2.6

「四月新学期、四月新年度ということはずっとやっていこうと思います。

なぜか。桜があるからです。だって、桜って「名状しがたく、すごいもの」じゃないですか。鶴屋南北なんて知らなかったって、多く人は桜の木の下には死体が埋まっていると感じるし、桜の咲く寸前には彼岸から死者が訪れて僕たちと交流するわけです。この「すごいもの」に触れて新しい年度が始まる。うまく言えないんだけど、日本人の多くは、たとえ天皇をわすれることはできても、この「共通感覚」をわすれることはできないんじゃないかな。」

宮台真司・清水由紀子『サイファ 覚醒せよ』 ちくま書房

鶴屋南北はたぶん梶井基次郎のまちがいたと思うが…………

2.7

「日本の人間の感情の昂揚は、しばしばこのような突発的な猛烈さにおいて現われた。それは執拗に持続する感情の強さではなくして、野分のように吹き去る猛烈さである。…さらにそれは感情の昂揚を非常に尚びながらも執拗を忌むという日本的な気質を作り出した。桜の花をもってこの気質を象徴するのは深い意味においてもきわめて適切である。それは急激に、あわただしく、華やかに咲きそろうが、しかし執拗に咲き続けるのではなくして、同じようにあわただしく、恬談に散り去るのである。」

和辻哲郎『風土』 岩波文庫

2.8

常識:

「一週間あまりの一面の花色。それが桜の春であり、日本人の国民性でもある」

⇒

……………どうも事実ではないようだ

おや、美味しそうな匂いが(笑)。

3.1

社会学の方法

- ①「常識をうまく手放す」
- ②「社会が社会をつくる」

「桜の春」の常識は百年少しの長さしかない

⇒

「春」の感覚も変わっている

社会の変化がその底に？

自分の手と目で事実を調べてみよう！

3.2

まずわかったこと

(1)ソメイヨシノは人工的な景観

遺伝子的にはクローン 接ぎ木で殖やされるので

遺伝子が全て同一

だから「ぱっと咲いてぱっと散る」=「一面の花色」の
景観

豊島区染井あたりの園芸業者が「吉野桜」という名で
商品化

⇒それで「ソメイ」+「ヨシノ」



3.3

発生地は韓国濟州島説、伊豆半島説などいろいろ

あったが、遺伝子解析の結果をみるかぎり、江戸東京の上野～巣鴨だろう

時代的にはたぶん19世紀の後半

←起源地論争はほぼ決着

それを「桜の春」だと思ふ現代の日本人

⇒

「自然」の観念が人為によってつくられている

≡「社会を社会がつくる」

3.4

(2)桜にはいろいろな種類がある

西日本にはヤマザクラ(吉野など)

東日本と西日本の山地はエドヒガン

南関東にはオオシマザクラ

東北から北海道はオオヤマザクラ

ほかに人工交配によるサトザクラ















3.5

花の期間もそれぞれちがう

例えば東京では

エドヒガンは3月下旬

ヤマザクラとオオシマは4月上旬

サトザクラは4月中旬

駒場の運動場でも









3.6

桜の季節は明治まで「一ヶ月」だった

「三月末から四月の末にかけて、・・・山の手も下町も満都の桜悉く咲き出でて、・・・都八百八町は本当に花の巷と化し・・・」

若月紫蘭『東京年中行事』(1911年)

「外【ほか】の花は、一重散りて、八重咲く花桜盛り過ぎて、樺桜は開け、藤は遅れて色づきなどこそすめるを、その遅く疾【と】き花の心をよく分きて」

紫式部『源氏物語』「幻」 紫の上追悼(平安時代)

3.7

もっと重要な発見！！

(3) (1)はすでに発見されていた

「ソメイヨシノは新しい桜で本当の日本の桜ではない、ヤマザクラこそ日本の本来の桜」

「ぱっと咲いてぱっと散るソメイヨシノは近代の桜で軍国主義に利用された」

現在の「桜の春」はいわばニセモノ＝「ソメイヨシノの春が桜の春である」ではない」(＝常識はまちがい)

→日本の本来の桜はヤマザクラ

……といろんな人が書いている



仙人の桜、俗人の桜

Heibonsha Library

赤瀬川原平

平凡社

†

赤瀬川 原平 (著)
仙人の桜、俗人の桜
(平凡社ライブラリー)
出版社: 平凡社 (2000)

3.8

「・・・私は桜なら全部好きで、染井吉野のお花見も大好きだけど、しかしあの白い花だけを満開にさせる美しさというのは、やはり西洋好みではないかと思う。それが広まったのは西洋的趣味へ追従もあったのではないか。葉を排除して花だけの満開を崇めるところに、どことなく分析的な、父性的合理主義というか、あるいは一神教的なニュアンスが感じられる。一方吉野の山桜の方は赤い葉が混じり、青い葉も混じり、他の木の緑も混じり、これが多神教的というところじつけかもしれないけれど、清濁あわせ飲むような味わいの深さがあって、そこに母性的な縫い糸の多様さを感じてしまう。・・・この山桜を見ているとその気持ち湧いてきてしまうのである。

「やっと小学校以来の常識であった染井吉野の桜が、私の中で衰退し、代って山桜が復興してくるのを感じる」





3.9

うーむ、すでに採掘ずみの鉱脈か……

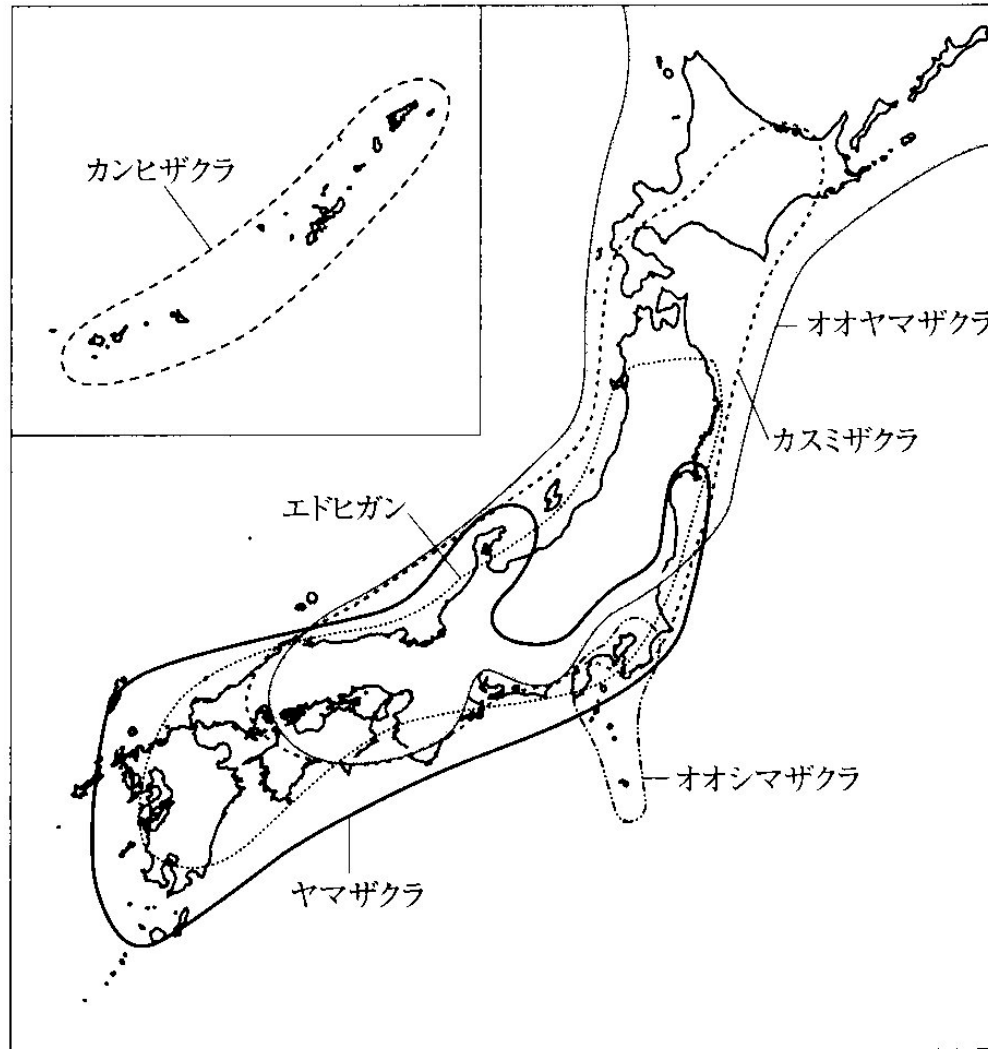
でもよく考えると(2)と(3)は矛盾する

ヤマザクラは西日本と東日本の太平洋沿岸

= 日本列島の一部だけ

なぜそれが「日本の本来の桜」？

なぜ「復興」？



それぞれの地域の線引きは大まかなものである。オオヤマザクラは九州の高い山にも自生する。カンヒザクラは野生化したものという説もある。

図 I-1 自生種の分布

† 佐藤 俊樹 (著)
桜が創った「日本」
—ソメイヨシノ 起源への旅
(岩波新書)
岩波書店 (2005/02)
P7 図I-1

3.10

本当に「面白そう……」と思ったのはこのあたりから

有望な鉱脈

- ①人がまだ手をつけていない鉱脈
- ②人が枯れた(掘りつくされた)と思っている鉱脈

衝撃度は②の方がずっと大きい！

4.1

現代の社会＝「自省的な社会」

「常識をうまく手放す」と「社会が社会をつくる」自体も
常識化

→いわば「みんながある程度社会学者になっている」社
会 ＝社会学ver1.0はすでに組み込み済み

→「メタ」と「ベタ」の往復運動 (by 北野暁大)

その上をいかないと プロじゃない

4.2

わざわざやるなら メタな常識までひっくり返せ！

①人がまだ手をつけていない鉋脈

ーではなく

②人が枯れた(掘りつくされた)と思っている鉋脈

ーの方が狙い目

現代の社会学の極意はむしろ②狙い！

4.3

前回のお話

常識をうまく手放す とは？

「常識は正しい」

……………当事者の世界

⇒「「常識は正しい」は正しくない」

……………社会学ver1.0

……………「〇〇思想」や「△△理論」

⇒「「「常識は正しい」は正しくない」は正しくない」

……………?

4.4

「「常識は正しい」は正しくない」は正しくない」の二つの回答

α : 「「常識は正しい」は正しくない」は正しくない」
=「常識は正しい」
…………『反社会学』=社会学ver2.0

β : 「「常識は正しい」は正しくない」は正しくない」
≠「常識は正しい」
…………社会学ver1.5? (^o^)

4.5

α は 二重否定＝肯定

「「常識は正しい」は正しくない」は正しくない」
＝「常識は正しい」

⇒会議は自己満足 疑う方がバカ
論壇的にいえば右派

「日本は正しい」 ……当事者の世界

⇒「「日本は正しい」は正しくない」 ……左翼知識人

⇒「「「日本は正しい」は正しくない」は正しくない

＝「日本は正しい」……昔の論壇右派、今のネット右翼

4.6

βは 二重否定≠肯定

「「常識は正しい」は正しくない」は正しくない

≠「常識は正しい」

……社会学ver1.5? (^o^)

「常識は正しい」部分もあるしそうでない部分もある!

私自身はこっちの方が面白いかな~

理由その1

「二重否定は肯定と同じ」だとひっくり返しのひっくり返し

→単調で退屈~

4.7

ただし β は最強の立場ではない

短所は

①いわゆる存在証明ができない

「Aでない」と仮定して矛盾を導いて「Aである」とはいえない

⇒論理操作で議論できる範囲が小さい

頭だけで知るうる限界が早く来る

②コストがかかる

部分によりけり 調べてみないと・・・

⇒頭だけで知るうる限界が早く来る

4.8

理由その2:

でもそれってむしろ健全なのでは

「常識をうまく手放す」

=常識から半分離れる

(だから1.0や2.0より1.5)

→「神の代理人」というより「道化」

別の常識や真理に訴えるのではなく

機知と笑い(と水面下の努力)で距離を生み出す感じ

……かな(^ ^)



5.1

では 議論をどう組み立てようか？

わかったこと

「ソメイヨシノの春が桜の春である」

⇒「「ソメイヨシノの春が桜の春である」ではない」

⇒「「「ソメイヨシノの春が桜の春である」ではない」ではない」

B: 二重否定 ≠ 肯定の形で考えると

⇒「ソメイヨシノの春が桜の春である」

ことは正しかったり正しくなかったりする

5.2

この命題を成立させるには何が必要？

⇒「桜の春」は一つではない
複数の「桜の春」がある

5.3

データからの裏付け

①大正期以前は複数の色彩感覚

桜の美しさは「一面の花色」だけでなく「紅と緑」「白と緑と茶」という意見も

安藤広重『江戸名所百景』

同じ作者が両方の色彩感覚をもつ



上野
清如水
不見池

名所江戶百景

清如水



5.4

②大正期以前は花の季節も「一ヶ月」

梅→エドヒガン→ヤマザクラ／ソメイヨシノ

→オオシマ・八重桜→つつじ

というゆるやかな移り変わり

そのなかに多様な桜がある





小石川植物園HPより転載



















境内徐行

禁止



傳法権頂用
関伽井

染御堂







5.5

裸木に花だけつく形から だんだん緑が濃くなる

⇒桜と桜以外は絶対的な区別はない

エドヒガンは梅に似ているし

紅の濃い八重桜はつつじに似ている

本来は春から夏への季節の変化の一部

桜それもソメイヨシノやヤマザクラしか見ないから

複数の「桜の春」に気づけないのでは……

5.6

表象としての桜

「一面の花色」はソメイヨシノで実現されたが
画像表現はそれ以前からある

⇒

これも桜の美しさのアイデアの一つ

人間がそれを後から交配で実現した

流行しすぎて「通俗的」とされたが……



上野
清心堂
不見池

名所江戶百景

清心堂

5.7

ソメイヨシノからみれば

- ①日本の桜の7～8割を占める
- ②大部分が戦後の植栽

大正14(1925)年に都内で78,530本

現在は数えられない……

⇒都市全体が「一面の花色」に覆われるのは
戦後の景観

⇒遺伝子の生存戦略としては大成功！

5.8

結論としていえば

何が新たに出現したのか？

「一面の花色が桜の春である」……×

「ただ一つの桜の春がある」……○

5.9

ソメイヨシノの出現が影響したのはむしろこちらなのでは

①列島の大部分を覆って各地域で一斉に花を開く

この景観はたしかに初めて

→「ただ一つの桜の春」の観念へ

②桜を見る期間が一週間になった

本当は今でも一ヶ月咲いているが、ソメイヨシノが一斉に咲いて散る姿が強烈なので、他の桜がかすむ

→「ただ一つの桜の春」へ